

# ほっかいどうの社会保障

2011年8月31日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:011-758-4666

## 計画の改善を求めて意見、質問あいつぐ！

### 第1回北海道高齢者保健福祉計画・介護保険支援計画検討協議会

8月25日、北海道高齢者保健福祉計画・介護保険事業支援計画第1回検討協議会が行われました。協議会は、学識経験者、保健医療団体、福祉関係団体、老人クラブ、認知症の人を支える家族の会、労働組合（連合）、首長などの代表17名で構成され、16名参加しました。

道から、介護保険施行状況、介護保険制度の見直し、「第4期計画」の進捗状況が報告され、「第5期計画」の策定について、指針（素案）と策定スケジュールが提案されました。資料は北海道のホームページ（<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/khf/homepage/02-keikaku/02-keikaku.htm>）に掲載されています。

会議では、計画指針（素案）について改善の意見や質問が相次ぎ、9月に公表予定の指針（案）は確定的なものではなく出されて意見を添付して各市町村に通知することなどが確認されました。次回の会議は10月です。

### 「計画自体、住民の実態や要求を反映していたのか？」

#### 事業ごとに関きがある「第4期計画」の進捗状況

「第4期計画」の進捗状況（3年の計画のうち昨年度までの2年分＝66.6%が目安）では、訪問介護（71.3%）などの居宅介護サービスや施設介護サービスは概ね計画通りですが、夜間対応型訪問介護（33.2%）などの地域密着サービスや介護予防サービスは概ね計画を下回っています【介護予防訪問入浴介護（29.4%）、認知症対応通所介護（26.9%）】。

一方で、全道156ある保険者のうち、夜間対応型訪問介護は152でサービス実績がない（あるのは4）など、保険者によって実績に差があることも報告されました。

議論では、「計画以上に進んでいる訪問リハビリ（96.1%）は、実績のない保険者が66もあるなど、計画が住民の実態と要求を反映しているのか」「医療の場合も地域によって格差が生じている。道としてまとめるだけでなく、地域別の資料も必要」など意見も出されました。

### 「介護制度だけでなく、高齢者の保健福祉・生活全般にわたる計画に」

「第5期計画」に作成指針（素案）についても意見が相次ぎました。「言葉だけが先行していて市町村へのバックアップがない。訪問看護や地域密着の利用率低いのは地域格差がある。小規模や居宅の建設は給付が増えるので道の支援が必要。住まいづくりは道としての独自の政策が必要。施設ユニット化低所得対策はどうするのか。生活支援3%の給付では到底無理なので対策を」「生活支援をメインにするというが、この会議に福祉援護課が入っていない。介護保険のみ中心になっている。高齢者福祉計画を前面に出していかなければならない」「ヘルパーの働き方が変化する中で、医療との連携や医行為の課題はどうなるのか」「地域包括ケアの圏域30分となっているが、実際に核となる場所が無いと難しい」「マンパワーの必要数とその養成について介護保険計画にはない」「認知症高齢者、独居高齢者は増加しており、権利擁護体制整備は急務の課題」「貧困ビジネス北海道でも増えている。道はその実態を知っているのか？低所得者の住まいの問題早急に実態を調査し取り組んでほしい」「参酌標準で特養などでは要介護4以上を7割としているが、現場では要介護2～3の認知症の方の緊急性が高い場合がある」

### 「暮らしに役立つハンドブック・2011年度版」販売開始！

被災者支援制度なども加え増ページで **200円**



北海道社保協発行の『道民の暮らしに役立つハンドブック・2011年度版』が完成、販売を始めました。貧困・格差が増大し、失業・経営難が増えています。住民税や医療費・保険料の軽減、生活保護の申請や雇用問題など詳しく説明しています。今回は、被災・避難された方々への北海道としての支援制度や求職者制度（第2のセーフティネット）なども掲載。相談活動にも最適なハンドブックです。前回より増ページの40ページです。価格も1冊200円でお求めやす価格になっています。

北海道社保協までお申込み下さい。